

**平成29年度 事業報告書**  
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド・相談ネットワーク

1 事業実施の報告

平成29年度はこれまでの相談支援、訪問支援（手紙によるアウトリーチを含む）、当事者会「SANGOの会」を毎月2回開催したほか、平成29年度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金「当事者から捉えるひきこもり回復後における就労定着促進事業」、平成29年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金（冠基金名：木村弘宣ひまわり基金）「札幌圏ひきこもり当事者会社会参加活動促進事業」、北海道NPOファンド 越智基金・市民活動支援基金「札幌圏ひきこもり居場所支援拡充事業（ひきこもりサテライト・カフェin小樽）」を実施した。また会報「ひきこもり」を公益財団法人 北海道地域活動振興協会・平成29年度ボランティア活動支援事業助成金により隔月で年6回発行した。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利に係る事業

事業名	事業内容と報告	実施	実施	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
		月日	場所			
外出困難なひきこもり者と家族への相談支援活動事業	ひきこもり当事者と家族からの電話、電子メール、手紙、来談による相談を行い、必要に応じて他団体機関を紹介するなどひきこもり当事者や家族が社会的に孤立しないような援助実践に努めた。 平成29年度は手紙相談延べ8件、電子メールによる相談件数は問い合わせを含め延べ209件。電話による相談件数延べ91件。来談による相談は延べ9件（うち継続相談1件）であった。電話相談については当NPOが新聞報道やテレビ放送で取り上げられたため前年度より増加した。	通年(年末年始を除く)	事務局	2人	相談総数延べ317人	7
ひきこもり者の家庭への訪問支援(アウトリーチ支援事業)	平成29年度は田中敦理事長が1ケースの訪問支援を実施した。そのほか、前年度に引き続き手紙によるアウトリーチ支援を20件(田中理事長10件、吉川理事10件担当)を実施し、当事者宛へ絵葉書を毎月2～3回郵送した。当NPOから当事者本人の最小限の同意のもと絵葉書を片思い的に送る支援だが、絵葉書を受け取った当事者から返信や年賀状が送られてきたケースもあるため、結果を求めずプロセスを大切にしながら続けていく必要がある。	通年・概ね毎月2～3回	事務局	2人	当事者21人とその家族	22
人間関係づくりを学習する当事者会「SANGOの会」活動	概ね35歳を基点にしたひきこもり当事者の当事者会「SANGOの会」を毎月2回、初心者例会と通常例会に分けて開催し、ひきこもり当事者が社会的に孤立せず、仲間とつながり自分にできることに取り組んだ。とくにプログラムを設けず参加者が話したいことを中心にフリートークし参加者同士で会話を楽しむことを中心に行った。5月の初心者例会では当事者の親が見学していたこともあり、親子双方の言い分を語り合う場面もみられた。 今年度はマスコミによる取材により担当の記者が例会参加があった。5月の初心者例会にはNHKが「手紙によるアウトリーチ支援」の現状について取材し、10月から11月にかけては共同通信社が「ITを活用した在宅ワーク」(別項参照)について取材した。2月の通常例会では社会福祉法人津別町社会福祉協議会の事務局長ほか職員1名並びに津別町職員2名との視察交流を実施した。これはSANGOの会のような居場所を津別町で開催したことをきっかけに実現したが、今後とも地域のモデルとなるような当事者会運営が求められる。 参加者数を前年度と比較すると通常例会では延べ15人が減少して59人、初心者例会では延べ37人が減少して43名だった。これは当事者が新しい進学先や就職が決まるなどして例会に来る必要性がなくなったことが理由の一つとして挙げられる。女性の参加者が一定数あり、関東圏では女性だけの自助会がつけられている現状から女性だけの自助会創設を今後の検討課題となる。 また会場に集まりフリートークを繰り広げるだけでなく、地域めぐり登山など外の空気に触れる機会を初心者例会で2回実施した。通常例会には参加しないけれど例会外企画だけには必ず参加する当事者がいるのも大きな特徴点で、当事者会活動とは空間による構造化されたものばかりではないことを意味した。	通常例会・初心者例会毎月1回実施 (平成29年度通常例会/初心者例会) 4月10日・7人/4月24日・5人 5月8日・5人/5月22日・4人 6月21日・10人/6月26日・4人 7月24日・4人/7月19日・7人 8月9日・4人/8月30日・4人 9月6日・5人/9月25日・2人 10月18日・4人/10月25日・2人 11月9日・5人/11月23日・3人 12月6日・3人/12月21日・3人 1月10日・1人/1月18日・5人 2月21日・8人 3月14日・3人 (2月、3月の初心者例会はインフルエンザ予防のため休会)	札幌市ボランティア活動センター研修室、札幌市社会福祉総合センター会議室	3人	北海道内に住む当事者毎月10人前後 平成29年度実績通常例会参加者延べ59人・初心者例会39人	13
当事者参画型札幌圏ひきこもり通信拡充作成事業(公益財団法人 北海道地域活動振興協会・平成29年度ボランティア活動支援事業助成金)	ひきこもり当事者や家族、支援者、一般市民等に向けて発信する会報「ひきこもり」(隔月6回)A4判サイズ全8頁フルカラー各100部及び電子版PDFを当NPOに関係するひきこもり当事者経験者が記事編集作業等を行い、社会貢献の意味から障害者就労継続支援施設B型において印刷製本のみ依頼し刊行。当NPOの会員ほか、札幌圏を中心にひきこもり支援団体機関、ひきこもりのわが子をもつ家族など幅広く配布した。 会報は前年度に引き続き表紙のイラストを当事者の高津達弘氏に依頼し掲載した。内容では生活保護受給者が語る生きにくさを綴った「無知無関心ではいけない伊深正英さんが語る」、親子関係の葛藤を赤裸々に語った当事者手記「水鏡につゆ玉ひとつ」を連載し、当事者の生の声を反映させてきた。複数の読者からイラストや写真を提供したいという意見もあり、今後も多くの意見を汲み取りながら発行していきたい。	通年・隔月1回年6回	事務局ほか在宅ワーク、	10人	正会員・賛助会員45人含む関係団体機関等50人	46

事業名	事業内容と報告	実施 月日	実施 場所	従事者 の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
当事者から捉えるひきこもり回復後における就労定着促進事業(平成29年度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金)	ひきこもりからの回復後における就労定着支援は未整備のため、立ち往生することも少なくなかった。そこで当事者の立ち位置からいまい度「ひきこもりと就労」のあり方を再考する目的で実施した。本調査研究事業では半構造化インタビュー調査法と就労経験を有するひきこもりの代表当事者を複数人招聘した一般公開型集团的討論方法をとる二種の調査方法を取り入れて実施した。前者は調査研究委員会で最終的な対象当事者の選定等を行い2017年8月から9月までの期間、対象地域に出向き個別インタビューによる聞き取り調査を実施、ICレコーダーを使用して逐語録を行い調査項目ごとに分析、考察を実施した。後者は2017年10月29日に道内外のひきこもり当事者経験者のネットワークから代表者6名を選考し集团的討論として「ピアが織りなすチカラとともに働き合うジョブサポート」と題するフォーラムを開催した(参加者40名)本調査研究事業の総括として「当事者から捉えるひきこもり回復後における就労定着促進調査研究事業報告書」(A4判全47頁モノクロ平綴じ印刷製本300部)をまとめ、北海道内のひきこもり当事者団体や家族会、ひきこもり支援関係団体機関に郵送配布した。またこれと同時に当NPOの公式ホームページやSNS(Facebook・Twitter)、会報「ひきこもり通信」などでも発刊のことを告知して希望する人たちの手元にも届くよう配慮した。	①半構造化インタビュー調査法 平成29年8月から9月 ②一般公開型集团的討論方法「ピアが織りなすチカラとともに働き合うジョブサポート」 平成29年10月29日	①札幌市、旭川市、函館市、帯広市 ②北方圏学術情報センター PORTO会議室A	3人	60名	650
札幌圏ひきこもり当事者社会参加活動促進事業(平成29年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金冠基金名:木村弘宣ひまわり基金)	ひきこもり当事者が心身に無理なく社会とつながって参加することが可能な「札幌圏ひきこもり当事者社会参加活動促進事業」を「仲間」「学習」「体験」の3つのパラダイムにより実践を試行し活動を展開した。「仲間」同士による活動では通常の当事者会例会活動(毎月2回・参加者延べ90名)に加え身近な地域を散策するアウトドア活動(円山登山2回・参加者延べ4名)や札幌市ボランティア活動センターが行うDM便発送作業(毎月2回・参加者延べ33名)に従事する拡大を図った。「学習」活動については親亡き後の生活課題を視野に「中高年ひきこもり当事者のライフプラン学習会」として、第1回は40代にひきこもりとなりその後山梨県で一般社団法人やまなしピアカフェを立ち上げ活動続ける代表理事の永嶋聡氏を招いた学習会「当事者が社会参加しやすい地域づくりをめざして」(参加者30名)、続く第2回は岡山県でひきこもり支援に特化した事業に取り組むNPO法人山村エンタープライズ代表理事の藤井裕也氏を招いた「地域おこしは人おこし」(参加者29名)を開催した。「体験」活動では非雇用型事業所アイデア企画(札幌市西区)の連携協力のもとITを活用した在宅ワークの中間労働づくりに取り組み(当事者5名体制)当事者の心身に無理のない社会参加活動を実施した。成果内容は電子版札幌圏ひきこもり当事者社会参加活動促進事業理解啓発リーフレット(A4判全8頁)にまとめ当法人HPに公表した。	①当事者会例会活動(別項参照) ②中高年ひきこもり当事者のライフプラン学習会 (平成29年) 第1回 9月17日 第2回 11月12日 ③ITを活用した在宅ワークの中間労働づくり 平成29年6月~2018年3月	①別項参照 ②北方圏学術情報センター PORTO会議室A ③団体施設サテライトオフィス	12人	80人	234
札幌圏域ひきこもり居場所支援拡充事業(北海道NPOファンド越智基金・市民活動支援基金)	北海道は他の都府県には見られない広域な地域特性を有し札幌市に拠点を置いた居場所づくりだけでは限界があり札幌圏域で当事者が自由に集う居場所が未設置でひきこもり家族会運営にも停滞感が見られた小樽を重点に置き、小樽市のバックアップのもと2017年10月から2018年3月まで毎月1回アウトリーチを行う札幌圏域ひきこもり居場所支援拡充事業「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」を6回開催し、ゲストスピーカーとしてひきこもり経験者や発達障害者などを招き話題提供をしてもらった。内外からの反響は大きく新聞等に幾度も報道されたほか津別町視察団との関係者交流会も実施した。当事者、親、支援者など各回20名前後の参加者があり、市議会議員や保健所研修医など支援の枠を超えた参加もみられ、理解啓発にもつながった。会場やプロジェクター等の賃借費用は小樽市保健所バックアップしていただくことによりすべて無料貸与されたほか、広報「おたる」には毎月本事業の無料案内告知掲載がなされた。また小樽保健所が協力して開催する「小樽ひきこもり家族交流会」の親たちのご厚意により毎回多様なお茶菓子が無料提供された。	ひきこもりサテライト・カフェin小樽 第1回 平成29年10月26日(事業説明懇談会) 第2回 11月16日 第3回 12月20日 第4回 平成30年1月25日 第5回 2月22日 第6回 3月22日	小樽市総合福祉センター4階和室	2人	120人	89

事業名	事業内容と報告	実施	実施	従事者	受益対象者	支出額
		月日				
広く一般市民にひきこもり等を理解してもらうための講演会・イベント開催事業	ひきこもりの理解啓発のための研修会などに理事者が出向き、講演やファシリテーターなどを行った。 平成29年度は田中敦理事長が平成29年10月から平成30年3月にかけて前掲の「札幌圏域ひきこもり居場所支援拡充事業」で小樽市の後援のもと「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」を実施しコーディネーター役として居場所づくりに着手した。また当NPOが協力してきた網走郡津別町で常設の居場所が設置されたことに伴い平成30年1月30日から3日間田中敦理事長が現地職員向け「津別町ひきこもり支援学習会」「家族相談会」「居場所支援」で講師を務めた。 その他、5月17日社会福祉法人札幌市社会福祉協議会主催「一日福祉セミナー」、11月30日「平成29年度市民のためのこころの健康セミナー」、12月16日不登校・登校拒否と向き合う親の会「はるにれの会」主催「第14回不登校を考えるつどいIN帯広」で講師を担当。3月17日北広島市で開催された「平成29年度家族・支援者のためのひきこもり学習会」では現在就労しているSANGOの会参加者ともに講師として登壇。続く18日、鷹栖町で開催された「第6回ぼかぼかハートのつどい」では旭川市で活動する当事者NAGI参加者で当NPO会員の植西あすみ氏、子ども・青年・家族を支えあう旭川そよ風の会を主宰する内島貞雄氏とともに登壇し活動報告を行った。8月26日にはNPO法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会主催「ひきこもりつながる・かんがえる対話交流会in札幌」に田中理事長、吉川修司理事が元SANGOの会参加者2名とともにファシリテーターとして参加し、東京でひきこもりフューチャーセッション庵を運営するスタッフとともに対話交流を行った。10月10日から3日間、厚生労働省主導の就労準備支援事業(任意)の研修会に参加し、NPOの立ち位置でひきこもりの「特性理解(1)」を担当した。 また田中理事長は、当NPOのほか北海道ひきこもり成年相談センター、札幌市ひきこもり地域支援センター、KHJ全国ひきこもり家族会連合会北海道はまなすで構成する「ひきこもりサポーター養成協議会」(全3回)に出席し、厚生労働省がひきこもり対策推進事業の拡充として掲げる「ひきこもりサポーター養成研修・派遣事業」について検討した。これに連動する形で北海道ひきこもり成年相談センター、ひきこもり地域支援センターを運営するこころのリカバリー総合支援センターが実施した「ひきこもりサポーター養成インターネット動画配信研修」(第3回)に出演した。 吉川理事は、前掲の「平成29年度市民のためのこころの健康セミナー」で50歳を迎えた当事者の心境について話題提供したほか、6月17日に放送されたNHK札幌放送局制作「おはよう北海道」土曜日プラス特集「ひきこもり あなたへの絵葉書」にVTR出演し、手紙によるアウト・リーチについてその意義を述べた。また、田中敦理事長とともに取材に応じた一般社団法人共同通信社の記事「扉を開けて〜ルポひきこもり」では前掲の「札幌圏ひきこもり当事者会社会参加活動促進事業」によるITを活用した在宅ワークについて取り上げられ、記事は山陰、東北、九州地方を中心に配信された。 武田俊基理事は毎月1回開催される当事者会NAGIの司会進行役としてサポートに入ったほか、旭川市で12月16日に開催された「こころのピアサポートフォーラム2017in旭川『ひきこもり』ってなあ〜に？」において植西あすみ氏、内島貞雄氏とともに登壇し、旭川で当NPOが果たした役割や当事者会創設に至った経緯を述べた。	(平成29年) 5月17日 7月25日 8月26日 10月10日～13日 11月13日 11月30日 12月16日(2件)  (平成30年) 1月30日～2月1日 2月8日 2月14日 3月17日 3月18日	札幌市内の公共施設のほか各会場	4人	北海道内に住む当事者と家族、実践者、一般市民等150人	47
自信回復を狙いとした一般就労と福祉就労との間に位置する中間的労働(在宅ワーク)を構築する事業	一般就労では不安感や負担が強く、福祉就労ではもの足りない制度の狭間に置かれるひきこもり当事者が、安心して社会参加できるように、当事者自らの可能性を信じて新しい働き方の構築を目指した。 平成29年度は公益社団法人北海道社会福祉士会道央地区支部の封筒づくりや印刷製本作業などの軽作業を札幌市ボランティア活動センターの依頼により当事者会「SANGOの会」に参加するひきこもり当事者が主体的に協力して実施した。依頼主である公益社団法人北海道社会福祉士会道央地区支部や社会福祉法人札幌市社会福祉協議会からは協力に対して大変感謝されている。	印刷製本作業 通年・毎月2回	札幌市ボランティア活動センター研修室	毎月3人～4人	北海道内に住む当事者3人～4人	33
他団体とのひきこもり支援ネットワークづくり事業	ひきこもりについての意見交換を積極的に行ない、他団体機関との交流を深め、ひきこもりの理解啓発、解決へ向けての方針策定をすすめた。 「北海道ひきこもり当事者連絡協議会設立事業」(平成28年度発足)において本協議会に加盟した5つの当事者団体(旭川・NAGI、函館・樹陽のたより、帯広・リカバリースポット、札幌・すなはま、SANGOの会)との連携協力体制を維持し友好的な団体関係を築いた。そのほか、前掲の「札幌圏域ひきこもり居場所支援拡充事業」において開催した「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」を小樽市のバックアップのもと、現地で20年以上家族支援を続けている小樽不登校・ひきこもり家族交流会の協力を得て6回実施し、平成30年度も継続して居場所支援を続けることが決まった。同じく居場所支援を当NPOとの連携で創設した津別町社会福祉協議会の招きで田中理事長が講師として協力し、津別町社会福祉協議会職員や津別町職員がSANGOの会並びに「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」を視察するなど地域間のネットワークづくりも順調にすすめてきた。 前掲の「札幌圏ひきこもり当事者会社会参加活動促進事業」において実施したITを活用した在宅ワークの中間労働づくりでは、札幌で長年生きづらさを抱えた若者と一緒に仕事を続けているアイダ企画の協力のもと不用品回収、搬送などを担ってもらうことができた。同じく「当事者から捉えるひきこもり回復後における就労定着促進事業」で開催した「ピアが織りなすチカラとともに働き合うジョブサポート」や「札幌圏ひきこもり当事者会社会参加活動促進事業」で開催した「中高年ひきこもり当事者のライフプラン学習会」に登壇した全国で活動するひきこもり当事者経験者の協力を得ることで昨年引き続き大規模なイベントを実施することができた。 前年度に引き続き北海道ひきこもり成年相談センター・札幌市ひきこもり地域支援センター主催の「ひきこもりサポーター養成協議会」では、全国ひきこもりKHJ家族会連合会北海道「はまなす」とともに出席し協議をすすめるとともに、インターネット研修事業の実施によりひきこもり支援の理解啓発に努めた。 さらに旭川の当事者会NAGIについては毎月1回の定例会に武田俊基理事が司会進行役として現地に赴き支援協力した。	平成29年4月～平成30年3月	こころのリカバリー総合支援センターほか各会場	4人	当事者、家族、実践者、学生、一般市民など延べ100人	56